

令和3年度 公立大学法人北九州市立大学評価委員会（第1回）議事要旨

- 1 開催日時 令和3年6月30日（水） 9：30～12：10
- 2 開催場所 北九州市立大学 北方キャンパス E-701会議室
- 3 出席委員（五十音順）
井上 洋美、権頭 喜美恵、勢一 智子（web参加）、安浦 寛人、
吉谷 愛

4 議事内容

（1）委員長の選出及び職務代理者の指名

委員長に安浦委員を選出。委員長が、職務代理者として吉谷委員を指名。

（2）令和3年度 評価委員会スケジュールについて

事務局から、令和3年度評価委員会スケジュールについて説明。

（3）令和2年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間に関する報告について

ア 北九州市立大学から、令和2年度に係る業務の実績及び第3期中期目標期間に関する実績を報告。

イ 質疑応答

○デジタル環境の整備等について

（委員）遠隔授業に必要な環境が整っていない学生への対応は。

（大学）昨年度は、Wi-Fi環境の整った図書館や教室の一部を開放した。今年度は、対面授業が中心であるが、図書館や自習室は利用できるようにしている。

（委員）遠隔授業における学生同士の繋がりに対する支援策は。

（大学）学生同士で議論できる科目もあるが、教員のスキルや人数等の課題があり、対応が難しいケースもある。フォロー科目を設け一部対面授業とすることで、学生同士のコミュニケーションの場を設けている。

（委員）遠隔授業等への切替に対し、大学がスピーディに対応できたポイントや今後の課題は。

（大学）情報総合センターやスキルの高い教員の協力があったこと、周辺環境のICT化が進んでいたこと、授業開始前など適切な時期にFD研修で遠隔授業のノウハウが共有できたこと等があげられる。遠隔授業で蓄積したオンライン教材の反転授業等への活用が今後の課題である。また、実験実習科目のオンライン化については苦慮している。

（委員）2020年度に新たに整備したもの及び既存のデジタル環境を活用した取組みの具体例は。

（大学）2020年度とそれ以前の違いは、既存インフラであるMoodle等の活用量にあると言える。従前はこれらを利用する教員は限定的であったが、2020年度以降は全教員が使用した。また、2020年度は複数の教室を回線で結ぶ連携教室を整備した。

（委員）遠隔授業における試験のチーティング（カンニング）防止策は。

(大 学) 不正の完全な排除は難しいが、テスト開始・終了時間を揃える、ランダムな出題、レポートの提出等、防止に努めている。

○海外留学等について

(委 員) コロナ禍における海外留学生の受入れ等において苦労した点は。

(大 学) 国によっては何週間も隔離期間がある等、本来の留学期間以上に期間を要する。

(委 員) 昨年度は海外留学が実施できなかったようだが、留学を目指して入学した学生への支援策は。

(大 学) 英米学科は海外体験が必須だが、留学できない学生向けの科目を用意している。昨年度は、コロナ禍の状況を受け、この科目を拡充して開講するため特任教員を採用した。

(委 員) コロナ禍で海外志向の学生が減り、この傾向は当面続くと考えられるが、英米学科の今後についてどのように考えるか。

(大 学) 学科そのもののリデザインは困難。海外大学のオンラインプログラムを活用する等、DP (ディプロマポリシー) との整合性も踏まえて、工夫していきたいと考えている。

(委 員) 英米学科の派遣プログラムは他学部生も参加可能とのことだが、これは単位認定の対象か。

(大 学) 「Kitakyushu Global Education Program」に設けている「Challenge コース」は、卒業に必要な単位認定の一部となる。

○研究活動の教育への反映について

(委 員) 環境技術研究所の各研究センターで得られた全国的にも最先端の知見等の成果を、どのように教育に反映しているのか。

(大 学) 当該研究に院生を参加させ、課題の解決や国内外の学会等での成果発表等の経験を通じ、高度職業人材の育成に努めている。また、学部1年生全員を対象とした学科横断型科目「環境問題事例研究」において、研究所の教員が協力し、研究の進め方等を教えている。

○地域貢献活動について

(委 員) 北九州市と連携した取組など積極的に地域活動を行っているが、大学における地域活動の全体像を知りたい。

(大 学) 「まなびとESDステーション」の活動、本学教員の市の審議会への参画等、北九州市と連携した取組を実施している。本学の地域活動の全体像は「ラボ・レター2020」という冊子にまとめている。

○社会人教育について

(委 員) コロナ禍における社会人教育の今後の方向性は。

(大 学) i-Design コミュニティカレッジについては、年齢層が高く遠隔授業が難しいことや、対面でないとい-Design で目指す教育効果が十分に得られない等の理由で昨年度は見送っていたが、今年度は対面・遠隔併用で授業を行っている。enPiT-everi 事業においては、昨年度は企業の技術者を対象にオンラインで実施した。今年度は、転職者や求職者を対象とした初心者向けのIT関係の社会人教育を準備中である。

○就職について

(委 員) 就職支援の観点から、地元企業と同窓会の繋がりはどうか。

(大 学) 同窓会に、積極的に活動を行っていただいているが、個人情報の問題で難しい部分もあるようだ。COC+事業の中で、地元企業の求人力に課題

がみられたため、地元企業の求人力アップ講座を実施した。地元企業の求人力の向上もあわせて行う必要がある。

- (委員) 3年以内の離職率はどのような状況か。
- (大学) 大学は、卒業後3年は就職の斡旋を行っている。3年以内の離職率については把握が難しいが、確認し、可能なら後日提出する。
- (委員) コロナ禍における就職活動に変化はあるのか。
- (大学) 就職活動については、オンラインでの面接も増えており、その対応については本学でもキャリアセンターで取り組んでいる。
- (委員) 大学院修了後の進路状況はどのようになっているか。
- (大学) 特に人文社会系大学院の院生は既に職を持っている人(社会人)も多いが、確認して後日提出する。
- (委員) 市立大学の役割の一つに、市外から若者を集めて市内で働いてもらうというものがある。数字のとり方によって実績値が変わってくると思うが、地元就職率の定義は。
- (大学) 市内に本社がある場合、または、本社は市外でも働いている事業所が市内である場合は地元就職としている。採用当初は配属先が不明な場合もあり、把握に時間がかかっている。

○広報について

- (委員) SNSフォロワー数の他大学比較について教えてほしい。
- (大学) 確認し、後日提出する。

○コロナ対応による教職員への負担について

- (委員) 全学生へのメンタルヘルスに関する調査等の学生支援を実施しているが、これらに対応する教職員の負担も大きかったのではないか。
- (大学) 学生支援の特任教員を採用し、体制を整えたが、新入生サポートセンター対応、教務対応、ICT対応など、教職員の負担は大きかった。

○実務家教員について

- (委員) 実務家教員の多用は素晴らしいことだが、成績評価の基準などをどのように共有しているのか。
- (大学) 実務家教員は、規程による手続きを経て採用している。また、科目の中でスポット的に実務家を招聘する場合は、コーディネーターの教員が成績の管理や評価を行っている。

○コロナ禍での財務上の影響について

- (委員) 学費の減免が増えたと思うが、決算への影響は。
- (大学) 国からの補填があるため、大きな影響は受けていない。
- (委員) コロナ禍が財務にどのような影響を与えたか。
- (大学) 留学支援費や研究経費の費用が減少している。一方、学びの継続のための支援金やICT環境整備費などの経費が増加したが、北九州市から特定運営費交付金をいただいております、損益計算書上はマイナスにはならなかった。詳細は、後日提出する。

(4) 評価方法について

- ア 事務局から、評価調書作成要領について説明。
- イ 委員の意見等
 - (委員) コロナの影響で、計画上の目標が未達成だからと評価を下げるのではなく、状況にあわせ柔軟に対応したのであれば高評価でもよいと考える。非

常に特別な年度であったことを背景に大学の努力を評価していきたい。

(委 員) コロナ禍のため代替策をとった取組みなどで評価していただきたいと考えているが、どうしても評価できない場合は保留としても可。

(委 員) コロナ禍における今回の評価について、評価指針に書き留める必要は。

(委 員) 指針を改正する必要があるかは次回以降議論していきたい。